

広報九州



平成24年10月10日

(2012年)

No 1689

九州森林管理局

〒860-0081

熊本市西区京町本丁2-7

IP電話 050-3160-6600(代表)

<http://www.kyusyu.kokuyurin.go.jp/>



大分北・西部の森林・林業の情報発信拠点として期待される新庁舎＝大分西部

新しい庁舎は、一昨年10月に施行された「公共建築物等木材利用促進法」を踏まえ、木材自給率の向上、間伐材の利用推進を図る観点から一三立方材の木材をふんだんに使用しています。新庁舎の建築に当たっては、県産材の積極的な使用、耐震性及び快適な執務環境の確保、来庁し易い庁舎をコンセプトとし、天領の面影を残す日田の町並みにあわせて切妻風屋根の落ち着いた



県産材を使用した執務室＝大分西部



新庁舎に看板を掲げる平之山局長と森署長

木材使用量：構造・造作材一三立方材、内装材一八立方材

敷地面積Ⅱ一九八㎡ 建物構造：木造平屋建（延べ床面積四四四㎡）

◆建物の概要

成を契機に職員一同が気持ちを新たに地域と連携した国有林の管理経営の推進を図ることとしています。

成を契機に職員一同が気持ちを新たに地域と連携した国有林の管理経営の推進を図ることとしています。



間伐材を使用した拡張アンカー工法＝大分西部

大分西部森林管理署新庁舎が落成 大分北・西部地域の森林・林業 情報発信拠点を新装

本年1月から旧庁舎敷地に建設していた大分西部森林管理署の新庁舎がこのほど完成し、10月9日に落成式を行いました。

昭和39年に建築された旧庁舎は、経年により老朽化が著しくなってきたことから、今回新築の運びとなったものです。

新し、柱の連結にはホルトを埋め込んで樹脂で固める拡張樹脂アンカー工法による耐震性の確保、多様な収納スペースによる快適な執務環境の創設、圧密スギ床材を使用したホールが見通せる入り易いガラス張りの玄関にするなど、耐震性や木の温もりを感じられるように工夫を凝らした庁舎となっています。

大分西部森林管理署は、現在、大分北・西部流域の6市3町の国有林約一四千畝を管轄していますが、引き続き森林・林業の情報発信の拠点として、庁舎落

いた町家風の木造平屋建てとしました。具体的には、特に構造材に国有林間伐材を使用

綾ユネスコエコパーク登録記念式典

地域が一体となって盛り上げていく

9月1日に宮崎県綾町の綾町公民館文化ホールにおいて、「綾ユネスコエコパーク登録記念式典」が、綾町主催、綾エコパーク推進協議会共催、九州森林管理局後援で開催され、九州森林管理局から矢野彰宏計画部長外2人が出席しました。

式典は、「森の朗読会&笙演奏」のオープニングセレモニーに始まり主催者を代表して前田穰綾町長が挨拶、来賓祝辞では平之山俊作九州森林管理局長代理で矢野彰宏計画部長が「九州森林管理局として、綾の照葉樹



記念式典であいさつをする前田穰綾町長＝綾町

林プロジェクトの諸活動を通じて、綾プロの取組に協力していきたい」との祝辞を代読しました。

その後、①「ユネスコエコパークの概念と理念」松田裕之横浜大学教授、②「ユネスコエコパークに繋がった綾町の取組と未来」鬼頭秀一東京大学教授による記念講演が行われるとともに、綾小学校、綾中学校、宮崎大学学生による提案やコーラスのアトラクションが行われました。

最後に、上野登てるはの森の会代表から「これからの綾ユネスコエコパークの始まりであり、

地域が一体となり盛り上げていく」との挨拶がなされ、「綾ユネスコエコパーク登録記念式典」を閉会しました。

(担当：川口画課)

官・民一体でゴミゼロ作戦

【都城支署】クリーン活動の一環として、都城市山田町の国有林と民有林で不法投棄物の撤去作業を行いました。当日は都城市、土木協会宮崎支部・都城地区林業協同組合や当支署から約50人が参加。古タイヤや空き缶、テレビなどを回収しました。約3時間の作業で、4トトラック1台、2ストトラック3台分の投棄物を回収することができ、これを機会に、国有林・民有林を問わず地域の皆さんで「国民



不法投棄物を回収する参加者＝都城支署

の財産である森林」を守る為の不法投棄防止に繋がればと考えています。

コンテナ苗の現地検討会を開催

【大隅森林管理署】鹿屋市の楠八重国有林において、鹿児島

沼田 正俊



林野庁長官が交替

9月11日付で、皆川芳嗣前長官が異動し、沼田正俊新長官が就任しました。

新長官の略歴は次の通りです。

- ◇ ◇ ◇
- 昭和54年4月 農林水産省入省 (上級甲・林学)
- 平成12年4月 林野庁指導部基盤整備課間伐対策室長

- 平成13年1月 林野庁森林整備部整備課造林間伐対策室長
- 平成15年7月 林野庁森林整備部整備課長
- 平成18年1月 林野庁森林整備部計画課長
- 平成20年7月 林野庁森林整備部部長
- 平成21年10月 林野庁国有林野部長
- 平成22年7月 林野庁次長
- 平成24年9月 林野庁長官



コンテナ苗の植え付けを体験する参加者＝大隅

県、林業事業体、森林整備推進協定締結者、署職員など125人が参加しコンテナ苗現地検討会を開きました。最初に局森林整備課の久保幸造造林係長、鹿児島県山林種苗(協)の能瀬事務局長から、九州局における低コスト造林の取組状況、鹿児島県におけるコンテナ苗の生産状況や植付方法について話がありました。午後からは、全員でコンテナ苗の植付を体験。最後に初めて植付した感想や苗の品質規格、植付作業時の苗木運搬について活発な意見交換が行われました。このような検討会の開催を一つの契機とし、造林コストの低減に向け、コンテナ苗が国有林・民有林において普及していくことが期待されます。



大分森林管理署

藤川内森林事務所

森林官 田中 優哉

大分県南部地域にある当事務所管内からは、隠れた名山である夏木山をご紹介します。

夏木山は標高一、三三六㍎と近辺にある有名な山々「傾山

隠れた名山 『夏木山』一、三三六㍎

(標高一、六〇五㍎) 祖母山 (一、七五六㍎) 大崩山 (一、六四三㍎) に比べ、そこまで標高の高い山でもなく有名な山でもありません。

しかし、毎年4月から5月に

かけアケボノツツジが咲く頃、当森林事務所には夏木山近辺のアケボノツツジの開花状況や夏木山への登山道がある国有林内林道の道路状況などに関する問い合わせが多数寄せられます。



山頂から傾山方面を望む



ノコギリの刃に似た「鋸尾根」

また、その問い合わせの中で、「岩尾根に咲き誇るアケボノツツジが素晴らしい！」、「一年に一度ここ夏木山に登りアケボノツツジを見ないと春を迎えた気にならない！」、「気軽に登れるがとも山が深い！」などなど夏木山の魅力について熱く語られる方が多くいらっしゃいます。

なお、夏木山は、登山道から最短コースでは2時間弱で登頂でき、初心者でも気軽に楽しめる山となっております。また、コースによっては難所も含まれ、中級者でも楽しめることはありません。登山者の方は、福岡や長崎などの九州各地がメインですが関東や関西からも登りにこられる方もいます。



夏木山山頂付近

そして、夏木山は傾山からの尾根から派生しており、祖母山・傾山・大崩山周辺生態系保護地区にも指定され、モミ・ツガなどの針葉樹やブナ・ミスナラなどの広葉樹の原生林が生い茂っております。

さらに、夏木山への登山道入り口の近くには藤川内溪谷や観音滝(庄巻の落差77㍎)といった素晴らしい溪谷美も併せて見ることが出来ますので、是非一度訪ねてみて、夏木山の虜になってください。

『ミヤマキリシマ』を保全

【大分西部森林管理署】阿蘇くじゅう国立公園に指定されている長者原から牧ノ戸峠一帯の国有林は、ミヤマキリシマなどの高山植物の群生地として知られています。群落では植生の遷移により衰退しつつある群落も見られることからミヤマキリシマの樹勢や開花量の経過観察を行うため刈出し試験地を設定しており、本年度も刈出し作業を実施。当署職員をはじめ環境省・くじゅう保護官事務所、九重の自然を守る会、九重・飯田高原観光協会から50人が参加し、手鎌を片手にミヤマキリシマの回復を願いながら、丁寧に刈り払いをしました。



刈出し作業を行う参加者＝大分西部



大林 凌さん

私は、中学校教諭として勤務その後、県立の少年自然の家、青年の家の専門職員として勤務する中で、様々な考えを教わりました。この施設は、修学旅行のように学校の先生が引率して、

【都城支署】宮崎県から森林作業道作設技術研修の講師依頼があり、県内の林業普及指導員20人を対象に霧島国有林の森林作業道において現地研修を行いました。最初に森林作業道作設マニュアルについて説明。現地では路網線形、洗越し工、流水処理、事業後の処理について説明を行い、受講者らは熱心にメモや、現地の写真を撮っていました。最後に受講者から、作設後の状況を視察でき、事業後の処理の重要性について、今後の



作業道において検討を行う受講者＝宮崎北部

野外活動や室内ゲーム、創作活動、天体観測などを学習する体験学習施設です。ハイキングの途中で、里山の話や森や林の役割、水の生成や環境への影響などを話していくと、次から次へと質問する場面になり、今までそうした体験がなかったのだと気づかされました。目を輝かせて話を真剣に聞いてくれる姿を見ると、学校でない違った体験の場が必要だと思いました。折しも森林管理署でも先生対象の森の塾や親子木工教室、森林教室などが実施されており、嬉しい限りで、最近指導に活かしていきたいと意見もあり、活動推進協議会設立目的の一環となった研修でした。

若者に体験活動を

の林務行政に変化を感じます。出来たら、上記のような施設や大学・専門学校職員などとの共同企画が進められたら、より広範な内容の充実したものが展開されるものと期待しています。企画と言えば最近では、植樹活動が針葉樹中心から混合林や雑木林へと変化し、各層・各団体に実施され、ボランティア活動の一環となっています。そこで考えねばならないのは、長期展望のもとでの事業計画が不可欠です。木は、教育と同様に国家百年の計で、なければなりません。総合的な計画のもとで、実施される事で効果がみられるもので、場当たりの継ぎはぎだらけの企画は、弊害さえ生じます。

「何のために、誰が、どのように、維持・管理するか」国の基本的な柱が、重要政策として明確に提示され、各省庁の垣根を外して、一体となった取り組みが求められます。一方、国民には、森林の持つ多くの機能を理解してもらうことが重要ですが、百聞一見にして、これまでに、40年近く愛煙してきて一度も休んだことはないし、やめようと思わなかった。今回、こんな羽目になるとは考えもみなかった。まだ禁煙が成功した訳ではないが、これまでの2箇半月の禁煙道中を分析してみると最初の10日間が最もきつかった。寝ても覚めても頭の中はタバコで占領されていた。それ以降は、吸



四月、通勤時、急に息苦しくなり一回目の発作が起きた。同じような発作が続き三回目に病院に行った。

禁煙道中

医師曰く、！タバコやめないと心筋梗塞で死にますよ！と脅しながら薬をくれた。本気にせずには過ごしてい

たらまた発作が起きた。再度病院へ、即入院となった。6月15日以降タバコは休んでい

喉のゼーゼーが無くなったのは確かであり、少しずつ効果が現れ始めているこの頃である。

工藤 篤

木育セミナー in 福岡

屋久島地杉の魅力を全国へ

【屋久島森林管理署】9月21日、福岡市天神の「アクロス福岡」において、屋久島地杉の魅力を全国に広める活動を展開している屋久島大屋根の会主催による、「屋久島の自然と地杉の魅力」をテーマにセミナーを開きました。

セミナーでは、屋久島森林管理署の山部国広流域管理調整官による屋久島の森林資源や林業の現状及び国有林の取り組みについて、屋久島大屋根の会事務局長浦田功氏による屋久島の森林文化や地杉の魅力についての講演が行われました。



セミナーに参加したみなさん＝アクロス福岡

講演後は、米田雅人屋久島森林管理署長や松下生活研究所松下修所長、セミナー主催者などによる屋久島の環境資源としての地杉利用の課題について意見交換が行われました。

会場には約50人の参加者があり、「地杉の魅力、屋久島の自然や文化の話しを聞くことができ、屋久島に行ってみよう」との感想が聞かれました。



シキミはお墓に使う花（葉）として利用されていますが、九州では一般的にはヒサカキが利用されています。

葉は輪生状に集まって互生して全縁で、やや厚く光沢があります。花を観察すると花弁が多いのに驚きます。萼（がく）が花弁状になり、花弁とあわせて花被片（花弁と萼）は12枚あります。

果実は数個の袋果が星状に並び、熟すと内縫線に沿って開裂し種子が出てきます（中華料理に使う「八角」と間違ひやすい）。

新宮中学生が除伐を体験

【福岡森林管理署】10月4日、

当署管内の下府浜国有林「楯の松原」で「筑前新宮に白砂青松を取り戻す会」の主催による体験林業を行いました。当日は、総合学習の一環として新宮中学校1年生280人が、松林内で手ノコによる除伐作業を慣れない手つきで体験しました。作業は、ボランティアや町職員を含め50人余りがサポートする中無事に終了。作業を終えた子供達も陽光が差し込んだ林内に満足



している様子でした。

手ノコで除伐する生徒ら＝福岡

シキミ科

果実の中から出てくる種子は光沢がありきれいなことから野外活動で、誤食されやすく事故が起きているので気を付けましょう。シキミの実（種子）は、「毒物及び劇物取締法」という法律で、植物で唯一、劇物に指定されている猛毒の毒草です。

名前は、シキミの有毒なことは昔から知られており「悪しき実」と云われ、「あ」が省略されてシキミとなっています。

シキミは林の林縁や日当たりの良いところ、暖かい海岸地方で多く見かけますが、九州では内陸部でも普通に見ることが



「秋」といえば、実りの・食欲の・・というとおおり、ついつい飲食が増え腹周りだけが大きくなっていく◆10月に入り、涼しくなったのを機にウォーキングを始めた。キンモクセイの香りの中、中秋は過ぎたがみことな名月を眺めながらの散歩に清々しい気持ちになった◆ある日、前を歩いていた年輩の婦人方が、「昔前まで人生50年、それ以上は長生きと言われた」と笑いながら話していた◆平均寿命が世界一となったのは衛生状態、栄養の改善と医療の発達が理由といわれている。早朝から天勢の老若男女がジョギング、ウォーキングに汗を流しているのは圧倒的に年輩の方が多い。元気な姿に敬服する◆ウォーキングを兼ねてみずあかりの祭典を見に、「火」「水」「竹」「蠟燭」と熊本の資源を活かし花畑公園から坪井川・熊本城にかけ竹灯籠などに無数のろうそくの灯かりが幻想的に揺らいでいた◆これを機会に色々なところを自分の足で見て歩くことに心がけていきたいと思う。生活習慣病予防対策としていつまでもウォーキングが続けられるように。(み)